

Unique &
Exciting

キャリア編

本下 昌彦

1978年応用電子工学科（T）入学
MSS-New York, Inc. プロジェクトマネージャー
フリーランス リサーチャー/ネゴシエーター

通信放送分野から 様々な国際ビジネスへの挑戦

電通大への進学のかっかけ

小学校高学年当時、大阪市内に住んでいた私は電気街「につぼんばし」に通い詰め、真空管ラジオを独学で製作しました。又ラジオ雑誌で読んだ第17次南極越冬隊芳野越夫隊長（電通大1期生）のオーロラに関する記事が、無線通信や宇宙物理学への関心を掻き立ててくれました。

在学中の思い出

入学した1978年の電通大は国立二期校単科大12学科最後の年であり、个性的で先端情報通信分野に意欲的な学生が多い環境でした。調布での下宿生活を送りながら、硬式野球部や工学研究会に所属し、多くの先輩後輩との絆を深めました。また、旧文部省肝入りで完成した五思寮第一期生として学問、スポーツ、文化活動を共有する充実した日々を過ごしました。卒業研究では長年の夢だった芳野・富澤研究室で宇宙電波物理学に取り組み、NASA仕様の衛星追尾可搬局を備えた菅平研究所でテレメーター学習とスキーが出来たことも良い思い出です。

進路選択にあたって苦労したこと

入学当初から取得目標にしていた第一級無線技術士（通称1技）は大学3年で全科目合格しました。特に電波法に詳しいと言うことで、のちの通信放送分野への就職面接時に役立ったかもしれません。また、応用電子工学科にて、80、90年代の日本経済をけん引した宇宙通信、半導体、原子力、情報工学分野等への貴重な教育を受けることができました。学問、部活、就職活動や家庭教師の両立に苦労しましたが、先輩の

方々のご指導の下卒業できました。今思えば学生時代しかできない事は出来る限り努力した気がします。

電通大卒業後、通信放送業務とBTA、ARRIBでの兼務

電通大を卒業後、私は大阪のMBS毎日放送に技術職として入社しました。人事部から1技を既に持っているので無線業務ではなく、主にテレビ番組制作技術に集中する辞令を受け、「ザ・ベストテン」「東芝日曜劇場」「センバツ高校野球」「駅伝」など、多彩な番組制作に携わりました。その後、テレビやラジオ放送設備の設計、運営、映像伝送技術の開発、電波法令書類管理など、業務の幅を広げていきました。日本初の全固体化放送機（テレビ10KW・ラジオ50KW）の設置工事や衛星テレビ中継基地局中継車、放送局本社スタジオの設計運営といったプロジェクトチームにも加わりました。入社当初、MBSの開局に深く関わった豊農裕孝氏（昭和24年新制本科卒）とは、意義深い出会いとなりました。豊農氏は、1951年日本初の民間放送局であるNJB新日本放送の開局を成功させた先駆者であり、その後もMBS毎日放送のTV開局にも携わり、放送業界の技術的礎を築いた人物です。さらに、44年後インターネット元年1995年の関西インターネット研究会設立総会において、豊農氏が「大変な時代になる」と断言されたお言葉は、私の新たな挑戦への決意を固めるものとなりました。また、1986年文化放送の海老沢政良氏（電通



大3期生)が座長だった日本初となるBTA(放送技術開発協議会)のAMステレオ放送試験電波発射(1KW)で無線従事者として加わった経験も、貴重な学びをもたらしました。その後1995年、BTAから移管したARIB(電波産業会)では、デジタル素材伝送小委員会の標準化審議委員とOFDM映像通信機器の開発作業員を務めました。さらに、1998年の長野五輪では、芳野研究室一年後輩のTBS青木葉吉樹君と共に閉会式の国際映像制作を技術ディレクターとして担当。芳野研OB2人が全世界に向けた映像配信に貢献したことは、放送技術者としての誇りとなる大きな成果でした。

ニューヨーク大学への進学から現在まで

こうしてデジタル通信技術やインターネット分野の未来を実感し、ニューヨーク大学大学院Interactive Telecommunications Programへ進学しました。当研究室では、IP技術、UI、デジタルビジネスモデルを学び、2001年5月卒業後にはMSS-New Yorkを設立しました。起業後は、英単語学習アニメ制作やMLBYankiesの生中継、東映映画米国側プロデュース、ビデオ業務マニュアル制作など、マルチメディアプロジェクトを展開。その後、リーマンショックをきっかけに各種国際展示会PR&運営や医療電子機器の米国マーケティング支援にも注力しました。電通大同級生で神奈川工科大学丸山充教授の紹介で、2016年ITU-T eHealth部会での標準化アドバイザーを担当。日本の国際標準化案件として、IPを活用した

非圧縮8Kリモート内視鏡の標準化を成功させました。又SC(スーパーコンピュータティング会議)にて、丸山教授の日米間非圧縮8K伝送実験を複数年、米国側のサポートをし、IP技術革新を深化させました。残念ながら2020年1月COVID-19の影響でマンハッタンオフィスを閉鎖し、ニューヨーク州アップスタートの州立公園内に避難してリモート活動に変更。Starlinkの導入や4K対応CCTVシステム、スマートホームの設計・施工に従事する一方、AIトレーナーとして新分野への挑戦を続けました。現在、加えて日系企業の米国研修企画立案運営や米国テストマーケティング販売を行い、幅広い分野での日系企業、個人の米国進出サ

ポートを行っています。

後輩へのアドバイス

AI技術の進化により、ビジネスや職種の変化が加速しています。この時代に対応するには、幅広い知識を吸収し、柔軟性を持ち続けることが重要です。また、全世界の情報の多くは英語です。出来る限り読み書きや英会話を磨くことで英語ビジネス力を高め、世界の多くの情報を直接活用し、デジタル社会でのリーダーシップを発揮できる可能性を高めてください。日進月歩のAIを上手く活用しAIの弱点を克服するため、正確な知識を基にしつつ、人間同士のリアルな交流も大切にしてください。



ハワイで行われたLPGAツアー放送のカメラ撮影担当



マンハッタンの上空をヘリコプターで空撮